

キャッチ番組審議会からのお知らせ

2025年3月7日に「令和6年度 第4回 番組審議会」が開かれました。審議委員のお名前と会議の内容は以下の通りです。

■キャッチ番組審議委員

【刈谷市】西村 日出幸 委員／小林 みゆき 委員 【安城市】原田 淳一郎 委員／木村 登志枝 委員 【高浜市】神谷 均 委員／八重口 治美 委員
【知立市】鈴木 徳二 委員／宮部 ゆきえ 委員 【碧南市】荒井 秋男 委員／河野 恵理子 委員 【西尾市】鳥居 照 委員／鈴木 佳代 委員長

審議番組 KATCH スペシャル 私たちがロボットに学んだこと ～刈谷工科高校のつくばチャレンジ挑戦記～(30分)

「IT工学科」を新設した刈谷工科高校では、AIやIoTを活用した技術を導入し、社会問題にも対応した、ロボットなどのシステムを創造できる人材育成を目指している。そんな刈谷工科高校の生徒が、移動ロボットが市街地を自律走行する技術チャレンジ「つくばチャレンジ(茨城県)」に参加し、ロボット製作を通して、あきらめない姿勢を学んでいく姿を取材した。

議 題 KATCH スペシャル 私たちがロボットに学んだこと ～刈谷工科高校のつくばチャレンジ挑戦記～ 番組内容について

●西尾市 鈴木 佳代 委員長

刈谷工科高校のIT工学科の設立や活動について初めて知った。先生と生徒が半年間、壁にぶつかりながらも試行錯誤し、挑戦し続ける姿に共感を覚えた。また、「地域の企業とのコラボレーションなど、技術共有の場を広げる」という企画意図どおりの内容になっていたと思う。この番組の放送、配信を通じて、刈谷工科高校の応援の輪が広がり、高校生の今後の技術習得につながるとともに、がんばる高校生たちの活躍を応援したいという気持ちになった。

●刈谷市 西村 日出幸 委員

高校生の真剣さや苦労、努力が伝わる番組だった。自立走行が難しく、困難なことだということも伝わった。番組終盤で、生徒や先生のコメントの出し方の演出について、番組制作側の思いと主旨が伝わった。努力している姿をどう表現するかについては、もう少し工夫があるとよいと感じた。視聴者としては、サクセスストーリーの番組が見ていて気持ちいいので、続編の制作も検討してほしい。

●刈谷市 小林 みゆき 委員

番組が刈谷工科高校だったので、身近に感じる事ができた。高校生が参加していることに頼もしく感じた。ロボットチームについて、希望した生徒なのか、選ばれた生徒なのか、授業やクラブ活動なのか分からなかったのが知りたいと感じた。ロボットについてもどのようなものがあるか知りたいと感じた。先生や生徒の苦労や頑張りが伝わってきてよかったと思う。今後も頑張っている人をいろいろなジャンルで取り上げて、紹介してほしい。

●安城市 原田 淳一郎 委員

番組での人物の紹介が、一部の人のみで、名前のテロップだけでも出してはどうかと思った。保護者の方も喜びと思う、生徒たちの励みになるのではないかと。今回取り上げたテーマは地域性や時代にマッチしていたと思う。最先端の技術に興味のある若者たちが、そのような産業で活躍できる未来を見据えた内容になっていて、子どもが具体的な進路を描けると思った。キーワードを見せる演出や音楽の選曲がよかった。

●安城市 木村 登志枝 委員

「あきらめないことが成功につながる」という言葉に、あらためて、人生の原点に戻り、生活したいと思わせる番組だった。なぜロボットの車輪を「つくばチャレンジ」の間際に変更したのかなど、番組内でわかるとよかった。身近な学校を取り上げてもらったので、内容に入り込んでみることができた。

●高浜市 神谷 均 委員

刈谷工科高校が分からず、以前の刈谷工業高校だと番組途中で気づいた。「工科高校」に名称変更し、学校としてどんなことをやっているのかなど、知ることができるとよかった。自律走行ロボットの開発を高校生から学ぶことは意義があることだと感じた。高校生たちが、失敗を重ねるごとに成長できればよいと感じた。生徒たちがどのような進路に進むのか気になった。また、「つくばチャレンジ」でのほかのチームの状況も知りたかった。

●高浜市 八重口 治美 委員

放送時間帯について、視聴ターゲットはわからないが、18時台は中学生からサラリーマン世代には視聴しにくい時間帯だと思う。番組が生徒たちの記録であれば、冒頭のインタビューは生徒たちのコメントがあればよかった。生徒たちの切羽つまった様子がナレーションと映像のみで、生の声がなかったので、彼らの喜怒哀楽がみられるとよかった。視聴者として応援したいと思ったときに、どんな応援ができるか、サポートしたいと思った人がつながれるような窓口になってもらえるといいと思った。次回も生徒たちが挑戦するのであれば、見てみたい。

●知立市 鈴木 徳二 委員

生徒たちの様子や気持ちがよく伝わる番組だった。生徒たちや指導する教員の姿を上手にまとめていると感じた。番組の最後があっさりしていると感じた。いろいろな要素をいれると、時間内に収まらない部分があると思うので、次回の番組制作を期待したいと思う。番組対象が大人だけとしていない意図を感じ、楽しく見る事ができた。

●知立市 宮部 ゆきえ 委員

高校生が挑戦する姿は、例外なく人に感動を与えられたと思った。この番組におさめられた記録だけでは、表現できない苦しい場面が多々あったらと想像した。挑戦する大切さを改めて感じることでできる番組だったと思う。このようなロボット開発に取り組み、社会をよい方向へ向かわせようと考えている若い人たちには頭が下がる。私も何か自分ができることを探さなくてはと考えさせられる番組でした。

●碧南市 荒井 秋男 委員

取り組みや活動内容を知ってもらうことで、応援の輪や技術共有の場を広げるという番組の意図に沿っていたと思う。緊迫感や苦悩なども表現されていたドキュメンタリーだったと思う。専門用語が多く、一部の人にはわかりにくいのは仕方がないが、大まかなロボットの仕組みの説明などの解説があれば、内容に入りやすかったのではないかと感じた。なぜ、「つくばチャレンジ」や「中之島チャレンジ」に参加したのかが分からなかったのが、大会の全体像が分かるとよいと思う。

●碧南市 河野 恵理子 委員

番組に出てきたマップのデータは、どのようなマップなのか、字幕がほしかった。視聴者からすると、マップの必要性や「中之島チャレンジ」や「つくばチャレンジ」の大会について詳細なルール説明があった方がロボット走行についてより理解でき、視聴者からの応援につながると感じた。加藤先生の素晴らしいご指導や生徒たちのあきらめない努力は、心を打つものがあり、何ごとにも失敗と捉えずに行動し続けることが大切であると学ばせてもらった。

●西尾市 鳥居 照 委員

今回の番組はぜひ継続してほしいと感じた。授業時間などで時間が限られている地元の高校生がモノづくりに挑戦していることを知ってもらうのは大事だと感じた。小中学生などの進路の参考になることも意義があると思った。プログラムなどは理解するのが難しい部分があるため、テロップなどでフォローするなど、視聴者がわかりやすい工夫があるとよかった。なぜタイヤを大きくしたのか、そのためにどうプログラムを変更するのか、変更することの難しさを伝えていくともっと深みのある内容になったのではないかと。